

■続・朝鮮通信使 2016夏・秋

■2016.8/13-18 韓国

■2016.8/25-9/3 瀬戸内～大阪～釜山

■2016.9/13 - 9/17 京都～横浜

# BankART NEWS Vol. 8

発行: BankART1929  
2016年9月30日発行



## 続・朝鮮通信使

속・조선 통신사

A Contemporary Sequel for the Joseon  
- KOREAN DIPLOMATIC EXPEDITIONS

### 2016 夏・秋



## 続・朝鮮通信使 2016夏・秋

ソウルや光州、釜山等の大都市の人たちとは継続的な安定した往来が続いているが、最近では地方都市のチームがよく訪れてくれる。今年の夏は、そういった街や組織の訪ねる旅にでた。坡州市、安山市、世宗市、南原市、清州市、光州市等の15チームぐらいを訪ね、ミーティングを繰り返した。

夏、今年は瀬戸内国際芸術祭の年なので、サンドラム(打楽器チーム)とそのコラボレーターの韓国のミュージシャンやアート財団の人たちとともに島から島へと瀬戸内を巡り、高松港でコンサートを行った。そのあと神戸、大阪を経て、南港(大阪)から船に乗り、瀬戸内海経由で釜山へむかった。柳さん、堀さん等が出品している釜山ビエンナーレでは、たくさん韓国のアート関係者と再会した。

初秋、東海道は、京都を起点に伊勢、名古屋、浜松、静岡、横浜を巡った。ここでも古くて長いおつきあいの人たちの新しい顔(活動)に出会うことができた。サンドラムは、道程中もどんどんパワーを増していたが、NYKのライブでも全開し、今年の夏をしめくった。

#### 続・朝鮮通信使

江戸時代の『朝鮮通信使』をヒントに、今日の日韓の新しい文化交流のプロジェクトとして展開する『続・朝鮮通信使』。お互いの施設を往来し、ミーティングや展覧会を重ね、共に旅することで、物や風物が重なり、文化が重なり、心が重なっていく、「旅する街」を構築していくプログラム。

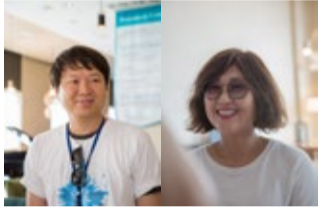


2016.8/13-18 韓国

8月13日《安山》



第一部は韓国の各都市を巡る。といっても既にソウル、光州、釜山などの大きな街は、何度も何度も行き交いがあり、具体的に展覧会やAIRなどを行っているので今回は、視察にきてくれた都市で、まだ一度も訪れたことのない街を中心に巡ることにした。今日は、いきなり、スケジュールを変更して、ソウルの少し南の京畿道の安山(アンサン)市を訪れる。遅くまで、お祭りをやっているというお誘いのおかげで。



安山文化財団のファン・ウジャさんとキム・ヨンジンさんが案内してください。キム・ヨンジンさんは、2011年のツアーのとき、富平アートセンターで見た印象的な写真展のキュレーターだった。2年前からこちらに在籍しているのだそうで、今回思いがけず再会できた。京畿道文化財団(とても大きい)と安山市文化財団は横のつながりも強く、人の交流もあるようだ。



まずは京畿道立美術館(Gyeonggi Museum of Modern Art)へ。



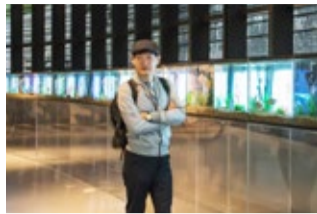
引き続きDanwon Art Museum(安山文化財団運営)へ。



その後、安山文化財団理事長のカン・チャンイルさんとミート。安山市の今後の構想を伺う事ができた。安山市は工業団地の街で、外国人の居住者が多く、多文化であることが特徴。急速に増えた人口76万人のうち10%は外国人。市制30年を経て、これからは近代工業都市から転換して、内水面も活用した環境文化都市へとシフトさせていきたいとのこと。



8月14日《京畿道-ソウル》



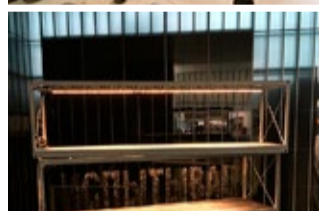
安山市から、同じ京畿道にあるナムジュンパイクアートセンター(Nam June Paik Art Center)へ。ディレクターのソ・ジンスクさんとミート。ACC(Asia Culture Center)の関係会議では何度もお世話になった友人だ。ソウルのループギャラリーは続けているが、昨年からは、当館のディレクターだ。



日韓学生合同展ETTEDA!の副委員長をしていた今井さつきさんと合流。バスでソウルへ。



何度かきている国立現代美術館ソウル館(MMCA)へ。設計は110組の公募から選ばれたミン・ヒョンジュンさん。国立現代美術館はこのソウル館の他に、果川館、徳寿宮館、清州館(工事中)と4つの美術館があり、情報の出し方も含め、共通の会員システムや、相互間のシャトルバスを出すなど、その4つのネットワークに力を入れているところはとても関心する。



Young Architects Program 2016という若手建築家の展示と、Kim Soojaの参加型の作品。そしてロングランのJulius Poppのbit.fall。



その後、東大門デザインプラザ(DDP)へ。以前よりもお客さんが多い。が、野外やショップエリアなどに、以前には見られなかったような家具や什器などが見られ、ちょっとびびり。企画展示室で行われていたKansong Art Museumの所蔵作品展では、若い人々が熱心に展示に見入っている姿が印象的だった。

8月15日《バジュ》



ソウルから北へ、バスで40分のバジュに到着。バジュ出版団地が、官民協同で推進されている。出版団地の組合次長、ジョ・ヨンジン(Jo Yong-jin)さんからパネルや模型で説明を受け、車で団地内を案内してもらった。この出版団地の計画は、昨日行った国立現代美術館ソウル館を設計したミンヒョンジュンさんが関わっているという。約1万人が働く、出版社と印刷工場の街が、一棟つづつデザインされ、小さな街が形成されている。



アジア出版文化情報センター(智恵の森)出版社や識者から寄贈された本による図書館。



出版から派生して、大きな図書館などの広場的な建物や、映画産業や特殊効果の会社などの誘致へも展開している。大きな撮影所の建築も計画中。行く末はハリウッド?!



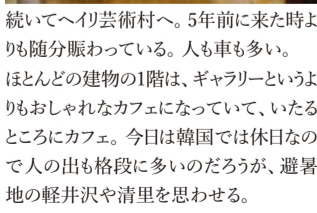
バジュは国境線の街。烏頭山統一展望台から北朝鮮側を望む。



まだまだ高層住宅を建設しているバジュという街のポテンシャルがうかがえる。



続いてヘリ芸術村へ。5年前に来た時よりも随分賑わっている。人も車も多い。ほとんどの建物の1階は、ギャラリーというよりもおしゃれなカフェになっていて、いたるところにカフェ。今日は韓国では休日なので人の出も格段に多いのだろうが、避暑地の軽井沢や清里を思わせる。それにしても韓国の北(というよりも南北の間)は人工の街が多い。



2011年ごろ

8月16日《ソウル-清州》



バジュからソウルへ電車移動。都合で順番が逆になったが、ジャパンファンデーション(国際交流基金)のソウル事務所にご挨拶。所長の山崎宏樹さん。



KTXで清州まで。ミスが重なり、世宗の新都心訪問は断念。



韓国最大規模の元タバコ工場(清州の工芸ビエンナーレ会場でもある)に到着。延べで18万平米ある。規模はまったくこっちの方が大きい。建物とその雰囲気はNYKとそっくりだ。池田は以前ここの国際シンポジウムに参加している。



財団事務総長のキム・ホイルさんとミート。これまで、巨大な空間をいっぺんに改修開発せず、活用しながら少しずつ改修計画を進めてきたが、ついに大まかな計画がまとまったようだ。建物の改修計画や今後の活用計画などについてお話を伺った。18万㎡のうち、2万が国立現代美術館関係。6万が工芸館、アミューズメント、1万が市民向けの施設。既存のオフィス棟、等。今後300億円投下していくそうである。



財団事務所やホールが常設されている建物は、外壁が無数のCDで覆われている。(昨年のビエンナーレの作品)



パンカートのざっと15倍はある、とにかく大空間。



清州の街を屋上から望む。街の真ん中にこんな巨大な、可能性のある空間があるのはとても羨ましい。



2011年ごろ

8月17日《清州-南原-光州》



清州で7店舗も展開しているチョコレート屋さん、本情へ。オーナーのリ・ジョンテさんは、アートサポーターで日本語が堪能。パンカートにも何度もきてくれている。



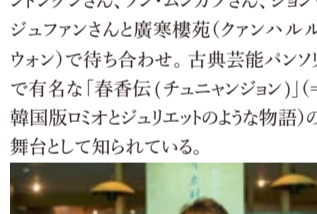
人はまばらだが、アーカイブ資料も大分整いなんとか運営の方も進んでいるようだ。夜は、ACC近くのドイツ人の夫と韓国人の妻が経営しているKUNST LOUNGEへ。今回の旅も最後の夜。光州には去年の展覧会で長期滞在していたので、ここへ来るとちょっとつかしい。



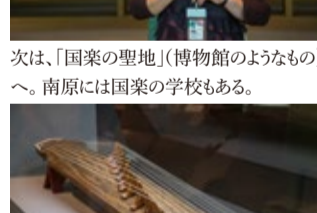
約1年ぶりの、光州市立美術館へ。



BankARTの展覧会の担当者だったキュレーターのピョン・ギリョンさん、新しくできるレジデンス施設の担当のキム・ミンギョンさんとAIRのことでミート。



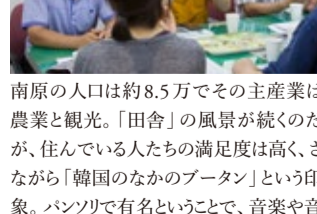
清州からはKTXでパンソリの街、南原(ナムウォン)へ。文化都市推進委員会のシンドグンさん、ソン・ムンガブさん、ジョン・ジュファンさんと廣寒樓苑(クワンハルルウォン)で待ち合わせ。古典芸能パンソリで有名な「春香伝(チュニヤンジョン)」(=韓国版ロミオとジュリエットのような物語)の舞台として知られている。



次は、「国楽の聖地」(博物館のようなもの)へ。南原には国楽の学校もある。



今年の通信使瀬戸内編で、サンドラムとともにパフォーマンスするパク・ヨニさんの演奏する伝統楽器、伽椰琴(ガヤグム)も展示されていた。



南原の人口は約8.5万でその主産業は農業と観光。「田舎」の風景が続くのだが、住んでいる人たちの満足度は高く、さらながら「韓国のなかのブータン」という印象。パンソリで有名ということで、音楽や音をテーマにした文化都市を形成しようとしている。



バスで光州へ。夕立の中、巨大な国の施設であるACCの夜間オープンの水曜日だったので、ちょっとだけのぞく。



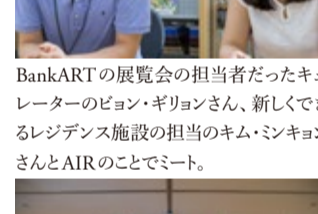
人はまばらだが、アーカイブ資料も大分整いなんとか運営の方も進んでいるようだ。夜は、ACC近くのドイツ人の夫と韓国人の妻が経営しているKUNST LOUNGEへ。今回の旅も最後の夜。光州には去年の展覧会で長期滞在していたので、ここへ来るとちょっとつかしい。



約1年ぶりの、光州市立美術館へ。



BankARTの展覧会の担当者だったキュレーターのピョン・ギリョンさん、新しくできるレジデンス施設の担当のキム・ミンギョンさんとAIRのことでミート。



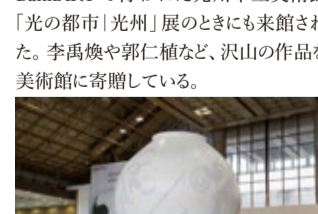
展示室では「河 正雄(ハジョンウン)コレクション」がおこなわれていた。河 正雄さんは在日2世の有名な美術コレクターで、光州市立美術館名誉館長でもあり、BankARTで行われた光州市立美術館「光の都市」光州」展のときにも来館された。李禹煥や郭仁植など、沢山の作品を美術館に寄贈している。



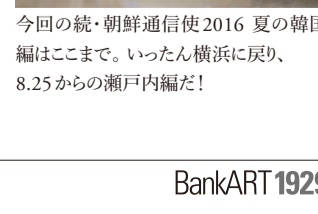
展示室では「河 正雄(ハジョンウン)コレクション」がおこなわれていた。河 正雄さんは在日2世の有名な美術コレクターで、光州市立美術館名誉館長でもあり、BankARTで行われた光州市立美術館「光の都市」光州」展のときにも来館された。李禹煥や郭仁植など、沢山の作品を美術館に寄贈している。



展示室では「河 正雄(ハジョンウン)コレクション」がおこなわれていた。河 正雄さんは在日2世の有名な美術コレクターで、光州市立美術館名誉館長でもあり、BankARTで行われた光州市立美術館「光の都市」光州」展のときにも来館された。李禹煥や郭仁植など、沢山の作品を美術館に寄贈している。



展示室では「河 正雄(ハジョンウン)コレクション」がおこなわれていた。河 正雄さんは在日2世の有名な美術コレクターで、光州市立美術館名誉館長でもあり、BankARTで行われた光州市立美術館「光の都市」光州」展のときにも来館された。李禹煥や郭仁植など、沢山の作品を美術館に寄贈している。



今回の続・朝鮮通信使2016 夏の韓国編はここまで。いったん横浜に戻り、8.25からの瀬戸内編だ!

2016.8/25-9/3 瀬戸内～大阪～釜山

8月25日《高松一女木島》



続・朝鮮通信使2016夏・秋のプログラム、第一部の韓国ツアーに引き続き、第二部は瀬戸内～関西を経て釜山へ。まずは、現在、瀬戸内国際芸術祭が行われている高松へ。



ツアーに同行するサンドラム7名も無事到着。



続・朝鮮通信使は、瀬戸内国際芸術祭の正式な参加プログラムでもある。まずは事務局へご挨拶。



27日に高松でまとまったコンサートをおこなうため、下見や音合わせなど。韓国から、サンドラムがゲストとして、カヤグムの奏者パク・ヨニさんをお迎えしている。



サンドラムの公演場所の隣では、やなぎみわさんの「日輪の翼」の公演があり、様子をのぞきに行くと、やなぎみわさんは残念ながら不在だったが、BankARTでも何度か展示や公演してくれている照明クリエイターの藤本隆行さんがいらした。

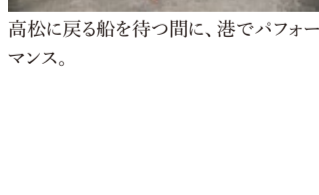


サンドラムを高松に残し、他のメンバーは女木島に

8月26日《高松一女木島》



サンドラム公演はリン・シュンロンの作品の内外に決定。朝早くから仕込み。



8月27日《高松》  
サンドラム+パク・ヨニ公演

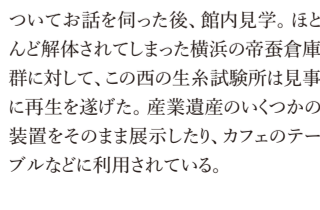
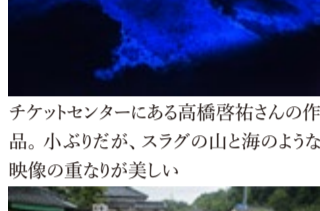
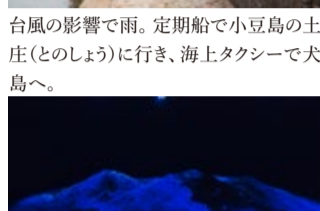


瀬戸内国際芸術祭の実行委員会の事務所で挨拶パフォーマンス



パク・ヨニさんは帰国のフライトのため高松へ。

8月29日《犬島-神戸》

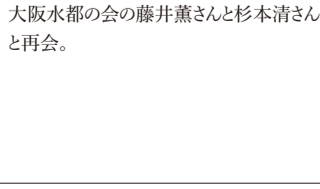
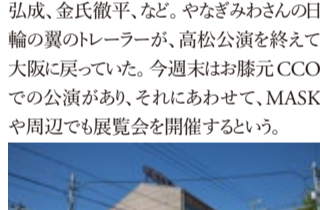
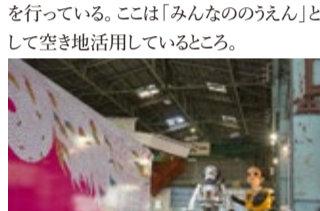
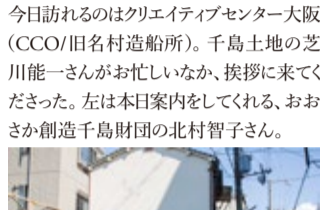


神戸、KIITOに到着。以前にも訪れたことがあるが、その時は未改修だった。館長の永田さんから、KIITOの歴史と活動についてお話を伺った後、館内見学。ほとんど解体されてしまった横浜の帝蚕倉庫群に対して、この西の生糸試験所は見事に再生を遂げた。産業遺産のいくつかの装置をそのまま展示したり、カフェのテーブルなどに利用されている。

8月30日《神戸-大阪》



神戸のチャイナタウン、南京街を通過して駅に向かい、電車で大阪へ。

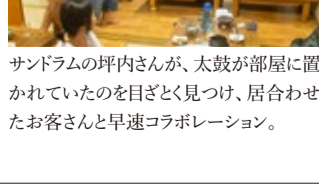
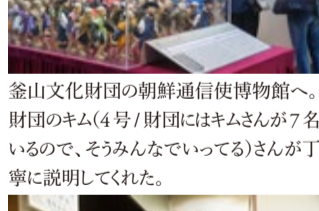
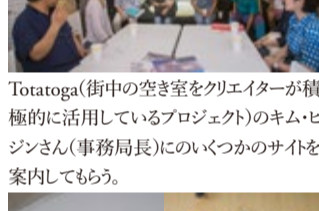
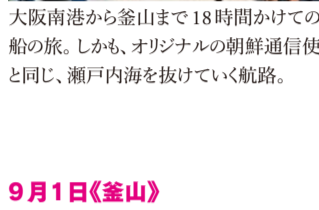


そして鶴橋のコリアタウンへ。2011年の朝鮮通信使の旅と一緒に韓国へ行った、大阪水都の会の藤井薫さんと杉本清さんと再会。

8月31日《大阪-釜山》



柳幸典さんのスタッフ大橋実咲さん(右)と八島良子さん(左)と合流。



釜山に来たら必ず訪れるタワー下の釜山浦。(旧日本人居留地)

2016.8/25-9/3 瀬戸内～大阪～釜山

9月2日《釜山ビエンナーレ2016レセプション》



今日は釜山ビエンナーレ2016のプレスなどのVIPオープン。雨の中、釜山市立美術館にはたくさんの人が集まっている。



ビエンナーレの主催者は2つ。そのうちのひとつ釜山市立美術館では「an/other avant-garde china-japan-korea」というテーマで、日中韓それぞれにキュレーターがあり、3つのコーナーに分かれている。日本のチーフキュレーターは榎木野衣さん。アシスタントキュレーターに上田雄三さん。さらにアドバイザーとして建島哲さんを加えた3人で日本のキュレーションチームが組まれている。



今秋、BankART Studio NYK 全館を使って個展を開催する柳幸典さんの作品が出品されていたり、



今期BankART スクールの講師でもある堀浩哉さんも出品されているので、その応援に駆けつけた。堀さんは自作の中で、パフォーマンスを繰り広げられた。



会田誠さん。



ビエンナーレの第二会場、F1963(キスワイヤーファクトリー)に移動。こちらでの展示は「混血する地球、多衆知性の公論の場」というテーマ。全体のディレクターはエン・ジェカブさん。



なつかしいたくさんの人々に再会。元オルタナティブスペースバンドのキム・ソンヨンさん。次回のビエンナーレの総合ディレクターだ。



オープンスペースbaeのソ・サンホさん、元釜山文化財団のチャ・ジェグンさんも。左は柳さん本人。



タムラサトルさんは、こちらの会場での展示に参加。左は、チャさんから紹介していただいた東亜大学建築学科教授のソグムホンさん。



いずれも参加作家の、柳幸典さん、榎忠さん、ユック・クンビョンさん。同窓会のように再会。



サンドラムが飛び入りで、「よろこびの舞」を披露。会場がさらに盛り上がった。

9月3日《釜山》



再度、ビエンナーレ第2会場、F1963(キスワイヤーファクトリー)を訪れる。橋梁などにつかうワイヤーなどをつづっているキスワイヤーという会社の古い建物を改修したアートスペースだ。手つかずのところと、お金をかけてきちんと改修しているところの強弱があって、美しいリノベーションを実現している。使われなくなった巨大な鋼鉄の機材などが要所要所に残され、展示されたり、家具として再利用されている。



展示をみているとやはり、いろんな人とくわす。イ・イナムさん。光州でも横浜展示でも大変お世話になった。



古くからの友人、ナムジュンバイクアートセンターのソ・ジンスクさん。



釜山市立美術館のリーウファン美術館のあとは、甘川洞文化村。朝鮮戦争の際に逃げた人たちが、コンディションの悪い急峻な山に居を構えた場所だ。そこが、きれいな色に塗られたり、アートが導入されたりと、ちょっとした観光地になっている。

2016.9/13 - 9/17 東海道(京都～横浜)

9月13日《京都》



京都市が推進しているHAPSというプロジェクトを訪ねた。アーカスにいた遠藤さんとBankART出身の芦立さんたちが運営している。京都らしい古い町屋をセルフで改修して、事務所と小さな展示スペースを確保していた。その他にも、元小学校のリノベーションスペースに作家のアトリエを設けたり、街なかにも多くの関係物件をコーディネートしながら、街のキーステーションとして、機能し始めている様子だ。



そのあと京都市立芸術大学が移転を進めている場所についてみた。昔から部落があったゾーンの多くの物件が解体され、区画が整理されはじめていた。文化庁分室が京都に設けられたり、最近、京都は何かとざわざわしている。このざわつきが、停滞した日本の文化状況を突破していく動きになるか？

9月17日《横浜》

久々の横浜、BankART Studio NYKでのコンサートだ。サンドラム7名+韓国からの奏者二名、イム・スンファンとイ・ソンス。サンドラムと彼らとの出会いは、まさにここBankARTでの3年前のレジデンスプログラムの時だ。たまたま訪れた二人とサンドラムは意気投合し、その後、かなりの頻度で日韓の往来を続ける。日韓合同のCDも出したばかりだ。それにしても今日のコンサート。パワフルだった。台湾、韓国への武者修行を通して、新しいリズムと言葉をどんどん吸収してきているのは理解していたが、それが一切ほけないのだ。むしろシャープに増幅、展開されているように聞こえる。夏の最後にふさわしい大輪だったと思う。

9月14日《伊勢》

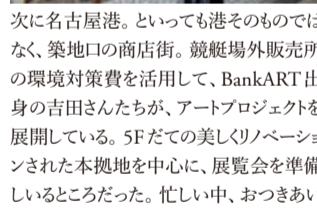
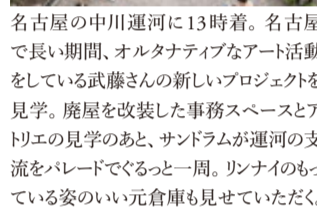


今日は東海道から外れたお伊勢さん。サンドラムが、メンバーの一部が伊勢在住ということもあり、内宮の奥山の高麗広公民館(伊勢市)で練習&コンサートをするので、こっちに脚を向けた。お屋は普通に伊勢神宮の下宮、内宮を参拝。続・朝鮮通信使で伊勢?と思うかもしれないが、語れば長いお話がうんとでてる関係なのだ。



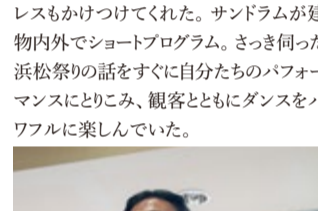
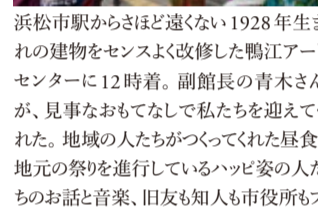
夜、恐る恐る山中で開催されるコンサートに参加してみた。道程は道幅は狭いし、ガードレールもないし、ヒヤヒヤもんだがなるとかたどり着く。でもコンサートは、いつもどおりのサンドラム。少人数のコンサートでも、なにひとつ、こびへつらうことなくパワフル全開だった。

9月15日《名古屋》

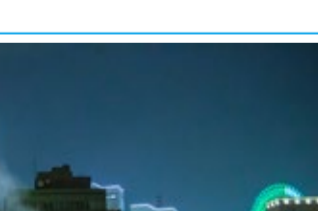


名古屋の中川運河に13時着。名古屋で長い期間、オルタナティブなアート活動をしている武藤さんの新しいプロジェクトを見学。廃屋を改装した事務所スペースとアトリエの見学のと、サンドラムが運河の支流をパレードでぐるっと一周。リンナイのもっている姿のいい元倉庫も見せていただく。

9月16日《浜松+静岡》



浜松市駅からさほど遠くない1928年生まれの建物をセンスよく改修した鴨江アートセンターに12時着。副館長の青木さんが、見事なおもてなしで私たちを迎えてくれた。地域の人たちがつくってくれた昼食、地元の祭りを進行しているハッピー姿の人たちのお話と音楽、旧友も知人も市役所もプレスもかけつけてくれた。サンドラムが建物内外でショートプログラム。さき伺った浜松祭りの話をすぐに自分たちのパフォーマンスにとりこみ、観客とともにダンスをパワフルに楽しんでいた。



15時に出発して静岡へ。副県知事の難波さんお会いするのためだ。難波さんは、横浜の国土交通省(合同庁舎)にいらしたときに、様々なかたちでBankARTを応援してくださった方だ。副知事室でコーラスを2曲。とても気に入ってくれた。

サンドラムは先に横浜へ、BankARTは朝鮮通信使ゆかりの清見寺へ。

